

関西経済界と関西広域連合との意見交換会（概要）

平成29年2月10日
関西広域連合本部事務局

日時：平成29年1月26日（木） 12:15～14:40

場所：大阪府立国際会議場 12F 特別会議場

出席者：（関西広域連合） 井戸連合長、仁坂副連合長、三日月委員、山田委員、
荒井委員、飯泉委員、門川委員、竹山委員、植田副委員、
鍵田副委員、鳥居副委員、小倉鳥取県元気づくり総本部部長
（関西経済連合会） 森会長、角副会長、佐藤副会長
（大阪商工会議所） 倉持副会頭
（京都商工会議所） 立石会頭
（神戸商工会議所） 家次会頭
（堺商工会議所） 前田会頭
（関西経済同友会） 蔭山代表幹事
（滋賀県商工会議所連合会） 北村理事
（奈良県商工会議所連合会） 小山理事
（和歌山県商工会議所連合会） 片山会長
（鳥取県商工会議所連合会） 藤縄会長
（徳島県商工会議所連合会） 中村会長

議事概要

<各団体の意見と主な委員の発言>

広域観光・文化振興関係

関西経済連合会（角副会長）

- ・関西国際観光推進本部では、昨年4月には、「KANSAI ONE PASS」を販売開始した。魅力付加により、販売枚数をさらに増やせる余地があると思っており、協力して進めたい。
- ・また、10月には、無料Wi-FiのOne認証（一度の認証により関西各地で利用が可能）が全国に先駆け関西で実施できた。現在、約24,000箇所アクセス可能であるが、魅力向上に繋げたい。
- ・2017年度からは、現在の観光推進本部と事務局を担っている関西地域振興財団を統合し、「関西観光本部」として、広域連携DMOを目指していきたい。新体制のもとで事業を進めるには、財源の拡充も必要であり、一層のご支援をいただきたい。また、「多言語コールセンター整備事業」や「手ぶら観光普及事業」といった新規事業にも、皆様と一緒に頑張っていきたい。

京都商工会議所（立石会頭）

- ・本年4月には、文化庁の地域文化創生本部が京都に設置され、新たな文化行政のモデルとなる先進的な事業が実施される。幅広い分野で文化庁と連携して取り組みたい。
- ・関西から文化の力で日本を元気にするため、関西の行政、経済界、文化・観光団体などが連携し、文化を生かした広域的な事業を具体的に実行していただきたい。
- ・「関西観光本部」には、文化事業と国際観光事業とのマッチングを図る司令塔としての役割を期待。運営やプロジェクトを効果的にコーディネートしていく旗振り役と仕組みづくり、本部への権限と予算の集中、商工会議所が参画する意義と取り組むべき役割の明確化の3点をお願いする。

堺商工会議所（前田会頭）

- ・「百舌鳥・古市古墳群」の平成31年度の世界文化遺産登録を目指している。今年こそ国内推薦を勝ち取るため、市民と経済界、行政が一体となって、さらなる情報発信・機運醸成に努めるとともに、課題解決に取り組む。力添え、また、登録実現後の連携に協力いただきたい。
- ・自転車を関西の観光にもっと活かすことを提案する。例えば、奈良・京都・和歌山の世界文化遺産等の歴史資産や自然環境資源を巡るサイクリングルートを設け、定期イベントを開催するなど自転車観光を推奨することで、訪問客にその地域の豊富な観光資源の魅力を存分に味わってもらえ、「関西」を千客万来の観光圏域として国内外に広くPRできる。

関西経済同友会（薩山代表幹事）

- ・我々が目指す I R は、大型の MICE 施設、世界にここしかないというようなアミューズメント施設も有する従来とは違った客層を呼び込める施設である。I R は関西全体にとって強力な集客施設であり、関西のゲートウェイとなる。関西のインバウンドの定着には、観光客の関西全体への展開が必須。大阪ベイエリアに一大観光拠点的形成することで、広域インフラの効果も生かせる。

奈良県商工会議所連合会（小山理事）

- ・奈良では、色々な誘客の取組を行っているが、独自に周知しており知られていない。関西全体で連携して取り組み、大きな集客効果に繋げていきたい。
- ・地域の文化と自然資源を活かした地域主導型の商品開発が重要であり、そうした動きを主導できる人や組織の育成を充実させ、満足度アップに結びつけていくことも必要である。
- ・流行やブームを追うのではなく、各地のルーツに根差したものを売り込むことも大切であり、関西の歴史・文化・伝統の多様性を活かすべきである。
- ・奈良には宿泊施設が少なく、日帰りが多いが、今後は質量ともに一層充実すると思われる。

鳥取県商工会議所連合会（藤縄会長）

- ・交通アクセスの充実が不可欠である。「関西ワイドエリアパス」の鳥取までの延伸、また、播磨側に繋げることにより関西全体の周遊が可能となる。
- ・今後、利用範囲拡大（の J R 西日本への働きかけ）について、ご助力いただきたい。

（井戸連合長）

- ・ I R の誘致と推進は、大変重要だと認識している。法が成立した今となつては、ギャンブル依存症対策を徹底的に議論してやっていただき、健全な I R の本来の目的に従った整備を推進することによって、大阪湾に拠点をさらに作っていくという基本方向は私も大賛成である。

（仁坂副連合長）

- ・エリアパスの話があったが、関西広域一円、全部同じ扱いにするよう言ってもらいたい。
- ・私はカジノ賛成と言い続けており、大阪はシティー型 I R、和歌山はリゾート型 I R と複数できたらと思っている。依存症対策の責任があるため、日本人は入れない方針。

（山田委員）

- ・関西観光本部については、官民挙げて一緒になって頑張っていきたい。
- ・KANSAI Free Wi-Fi (official) については、さらに対象アクセスポイントを広げていく必要があると思っている。
- ・「KANSAI ONE PASS」については、普及が進むほど、利用可能範囲の話が出てくると思っている。関西観光本部において取組を進めていきたい。
- ・将来的には、関西どこからでも対応可能な「多言語コールセンター」の設置を一緒に目指していきたい。
- ・東京一極集中を是正する観点からも、是非とも文化庁の移転を皆様とともに成功させていきたい。これからできる地域文化創生本部を中心とした事業について、ご協力をお願いしたい。
- ・文化庁では、新たに文化財の活用も含めた観光産業、コンテンツ産業、食、そして伝統産業と、文化財の保護・維持から文化産業へとかなり軸足を広げていきたいという意向を示している。新文化庁を突破点として新たな産業行政を関西から興していきたい。
- ・百舌鳥・古市古墳群については、世界遺産を KANSAI 国際観光 YEAR 事業のテーマに取り上げ、この古墳群の話も一生懸命 P R させていただいているところであり、さらに頑張っていきたい。
- ・自転車観光の推奨については、京都、奈良、和歌山と 180 キロに及ぶ自転車道の建設を行っている。関西では、サイクリング関係の催しだけでも 40~50 あり、こうしたものをうまく有機的につなげ、新しい体験型観光の中に取り入れていきたい。
- ・ I R については、関西広域連合で研究会を設けたときに、「具体的な I R についての動きが出たときに、もう一回関西広域連合としてしっかりと検討し、対応する」という結論となった。これから I R が具体化するに従って、関西各府県市との関係、広域的な視点からの I R の振興等を踏まえて関西広域連合として検討をしていきたい。

（荒井委員）

- ・関西ワイドエリアパスが関西エリアの乗り物の全てをカバーできれば関西のダイバーシティを見てもらう一番いいツールとなる。

- ・関西は東京と比べ、都心の相互直通運転が極めて少ない。パスの多様化と相互直通運転の進展は、関西にとっての決め手になるのではないが。
- ・東京サミット開催時は、記者に無料のサミットパスを配布した。関西は、非常にバラエティがあるので、関西 WMG2021 や万博で広報担当者に無料パスを渡して見て帰ってもらうサービスも一つのアイデアである。

(門川委員)

- ・昨年7月に文化庁と、新たな文化行政のスタートということで共同宣言を行った。しっかりと連携していきたい。
- ・観光はインバウンドも含めて順調であるが、間もなく担い手不足で大変な危機になるだろう。宿泊業、飲食業の従業員の75%が非正規では持続可能な産業にならないし、質の高いおもてなしもできない。労働生産性を高める仕組みを作らなければならない。
- ・外国語研修を受けた運転者が乗車するタクシーをフォーリンフレンドリータクシーとして認定し、京都駅に乗り場を設置した。その運転手が別料金を取れるようにすれば、優秀な大卒者もタクシー業界に入ってくる。他事業のように関西全体で取り組みたい。
- ・スポーツのビッグイベントが続くが、東アジアでみると、来年は平昌、5年後は北京で冬季五輪がある。冬季五輪に行く人にも関西を回ってもらうような広域観光を仕掛ける必要がある。
- ・文化庁が行う東アジア文化都市を、今年は京都で行う。日・中・韓の文化交流を行うことで相互理解を深め、観光振興にも寄与していこうということにも、共々に取り組んでいきたい。
- ・民泊には、危機感を持っている。パリでは、民泊の方が儲かるからとアパートの更新を拒否され、学校が成り立たなくなり、観光地は人口が減少している。関西広域連合で国に対して意見書を出したが、しっかりと対応していきたい。

(竹山委員)

- ・関東では、百舌鳥・古市の理解がなかなか得られていない。何としてもビッグイベントが続く年の始まりであり、アピール効果のある2019年の世界文化遺産登録を目指したい。
- ・海外の方にとって、自転車ツーリズムは非常に関心が高い。着替え等の便宜が図れ、乗り捨てや乗車が可能というサイクルポートのような施設を作っていかなければならない。
- ・関西への定住、地域の活性化に自転車ツーリズムを使っていきたい。

広域スポーツ振興関係

大阪商工会議所(倉持副会頭)

- ・スポーツ産業の振興など各自治体、経済団体には、一層の連携・協力関係の強化をお願いしたい。

関西経済連合会(佐藤副会長)

- ・2019~2021年に控えるゴールデンスポーツイヤーは、スポーツ産業振興にとって未曾有の好機である。特にラグビーワールドカップ2019と関西 WMG2021は、関西のスポーツ産業振興の起爆剤として最大限に活用すべきであるが、現時点では認知度は決して高いとは言えない。
- ・ラグビーワールドカップは「みるスポーツ」の、関西 WMG2021は「するスポーツ」の祭典である。これらを一連のストーリーとして、関西のスポーツ産業振興に繋げるための方策や機運醸成、地方創生に資する大会後のレガシーのあり方などについて、関西の産学官が一丸となって本格的に検討していく場を関西広域連合において設けていただくようお願いしたい。
- ・スポーツ産業振興には、スポーツ人口の拡大が必要。総合型地域スポーツクラブの活性化は、アスリートの働き口の確保にも繋がり、「スポーツの関東一極集中」の是正や、スポーツによる地域活性化にも寄与する。
- ・総合型地域スポーツクラブと民間スポーツクラブとの連携を図り、クラブ運営のノウハウやスポーツ指導者の活用、会員の獲得等において、相互に利点を見出す枠組みを構築するなど、協力できる部分は多々あると考えている。関西広域連合でも、クラブ未設置自治体の解消や、活動充実に向けた支援強化を進めていただくようお願いしたい。

(井戸連合長)

- ・国際大会開催を契機とし、スポーツの振興だけでなく、スポーツを通じた健康づくりや、スポーツを通じたツーリズムに結びつけていく必要がある。ベクトルは一致しており、協力しながら推進を図っていきたい。特に「みるスポーツ」の大会と「するスポーツ」の大きな世界大会の推進に力を入れていきたい。
- ・兵庫県では「スポーツクラブ21」として、地域スポーツの拠点づくりをやってきたが、活発に

続いているとは言えない。スポーツクラブ 21 の全県大会を開催し、活動継続に努めている。

- ・総合型より、サッカーや野球などの単一スポーツクラブの方への関心が強い。これをどう総合型と結びつけていくかが課題である。

(鳥居副委員)

- ・神戸市はラグビーワールドカップの会場になっており、2019 年に向け、会場の再整備に努めていきたい。また、これを通じたスポーツの振興については、商工会議所とも一緒に、準備委員会なども含めて機運の醸成に努めていきたい。関西 WMG2021 では、神戸市は 6 競技を開催するので、こちらもあわせてスポーツ産業の振興に努めたい。

広域産業振興関係

大阪商工会議所(倉持副会頭)

- ・大阪商工会議所では、昨年 12 月に新中期計画「たんと繁盛大阪アクション」を取りまとめた。その実現に向け、ライフサイエンスやスポーツ産業の振興などウェルネスの加速、観光消費や対内投資拡大を図るインバウンド増進、ものづくりのオープンイノベーションを支援するマーケット創出という 3 つの戦略フィールドからなる総計 60 の事業に注力していく。
- ・各自治体、経済団体には、一層の連携・協力関係の強化をお願いしたい。

徳島県商工会議所連合会(中村会長)

- ・徳島県の中小企業においては、「人手不足」と「後継者不足」が重要な課題となっている。各府県の商工会議所に設けられている事業引継ぎ支援センターにおいては、事業承継についての成果を挙げつつあるところであるが、さらに自治体とのネットワークや広域での連携を図ることにより、多様な人材の活躍の促進と円滑な事業承継の促進をお願いしたい。

(植田副委員)

- ・国が各都道府県に事業引継ぎ支援センターを設け、支援施策を展開しているが、今般、国から、府県のリーダーシップで地域に密着した支援機関のネットワークを作るとの考え方が提示された。関西広域連合としてもこれらと歩調を合わせる中で、どういうことができるかを含め、人材確保等について、引き続き積極的に活動したい。

広域環境保全関係

滋賀県商工会議所連合会(北村理事)

- ・琵琶湖、淀川流域の源を担う県、地域として、淀川流域の抱える問題に対し、官民挙げてしっかりと対応してまいりたい。滋賀の経済界も関西広域連合との協働のもと、示された将来像の実現に向け取り組んでいく。

(三日月委員)

- ・関西は環境先進地域であり、持続可能な社会活動、経済活動、また、その基盤は関西にありということをしかりと発信できるような取組をしていきたい。現在、広域環境保全計画を策定中であり、その中にもそういった視点をしかりと盛り込んでいきたい。
- ・また、関西は色々なところで水のつながりがある。琵琶湖・淀川流域についての研究も一定行ったので、上流と下流の理解促進、協力連携をしかりと作っていくような視点でもさらに進めたい。

広域インフラの整備

大阪商工会議所(倉持副会頭)

- ・北陸新幹線の早期大阪延伸について、万博開催などを梃子に早期開業を実現するため、関西の行政、経済界を挙げて政府与党に働きかけていきたい。

堺商工会議所(前田会頭)

- ・関西国際空港への外国人入国者数の伸長は、同時に、空港と都心部とのアクセスのさらなる向上が必要となる。この課題解決には、関西国際空港を国土軸と直結する関空新幹線の実現が不可欠である。実現すると、大量かつ迅速にインバウンド需要を取り込めるだけでなく、首都圏の有事の際の関西のバックアップ機能のさらなる強化に加え、リダンダンシーの観点からも、第 2 国土軸の形

成に資するものと認識している。東京一極集中の是正や国内外における関西の相対的地位の向上のため、関空新幹線の実現に向けて、オール関西での連携した取組を強く願う。

奈良県商工会議所連合会（小山理事）

- ・京奈和自動車道をはじめ、関西圏を大きく取り巻く道路網の形成を早く実現しないと、交通の連携性を高める首都圏との格差がますます開き、首都圏と関西の二極構造で国土を牽引するという国土構想の実現がさらに難しくなる。これらの重点的な整備に向けて、連携した取組をお願いしたい。
- ・リニアの早期開通及び奈良駅の設置をお願いしたい。

和歌山県商工会議所連合会（片山会長）

- ・地域経済活性化、特に広域観光振興のためにも、関西全体の広域的交通網のネットワークが不可欠である。東西の交通網は、順次充実されているが、南北の交通網は、極めて不十分。
- ・第二阪和国道の開通や県内の高速道の整備に大いに期待しているが、南北間には、まだ幾つかのミッシングリンクがある。特に県南部は、物流面での経済効果に加えて、南海トラフ巨大地震発生時の避難経路、あるいは防災拠点としての機能確保という防災対策の点からも重要。未整備部分は早期解消し、近畿自動車道紀勢線の全線開通に向けた強い働きかけをお願いしたい。
- ・東西と南北の交通網をさらに経済的効果のあるものにするには、それらを有機的につなぐ環状道路が必要であり、大阪湾の環状道路や関西大環状道路の実現が必要である。
- ・京奈和自動車道の全線早期開通をぜひとも応援していただきたい。加えて、大阪湾環状道路や関西大環状道路の実現には、現在ミッシングリンクとなっている紀淡連絡道路の建設が必要。国土軸と直結する関空新幹線構想を始め、関空・紀淡・四国高速交通インフラの実現について、地方創生と国土強靱化の2つの観点から、関西広域連合においても優先的に取り組んでいただきたい。

徳島県商工会議所連合会（中村会長）

- ・四国は全国で唯一の新幹線空白地帯となっている。交流人口の拡大、国土の均衡ある発展はもとより、南海トラフ地震への対応力強化からも、その整備は不可欠である。
- ・大阪市を起点とし、紀淡海峡ルートにより、徳島市を経由し大分市を終点とする四国新幹線の整備について、関西広域連合としても格別の取組をお願いしたい。

（井戸連合長）

- ・北陸新幹線の大阪乗り入れについて、二階幹事長や石井大臣にお会いし、早期着工を求めた。地元としても何ができるのかも含め、プッシュをしていくことも必要ではないか。
- ・関空新幹線を作るならば、四国新幹線、関空新幹線、両方の働きかけをしていかなければいけないのではないかと認識している。

（仁坂副連合長）

- ・北陸新幹線の早期着工については、関西広域連合の行政側も、熱心に言っていないといけないうが、財界の皆さんも、是非その方向で声を合わせていただきたい。
- ・関西広域連合では、基本的な考え方をまとめ、高速道路網、高速鉄道網のマッピングをし、我々一同、どこへ言っても同じことを言おうという申し合わせをしている。鉄道については、意見の相違があるが、段々とまとまってきている。
- ・紀淡海峡ルートの構想については、継続して関係者で頑張っていきたい。

（山田委員）

- ・今の広域高速鉄道の体系が決まったのは、関空やリニアが存在していない昭和48年頃である。そうした中で、リニア、北陸新幹線、関空・四国新幹線をどこでどういう形で交差をさせるのか、既存のJRや市間でどういう形でネットワークをつくるのかといった議論が全くされていない。こうした検討をどこかでしっかりしないと、大混乱のまま、実現可能性なく終わるのではないかと。こうした議論がしっかりできる土壌を官民で作っていく必要がある。ルート問題の話はタブーのようになり残念でならない。こうした点も含め、関西の未来を積極的に議論し、今後の道筋ができることを期待したい。

（三日月委員）

- ・関西は日本の真ん中にあり、中部圏と北陸圏、また関西圏を繋いでいくことが大事だという、この一点で我々は団結し取り組んでいる。今回、基本計画路線が整備計画路線に格上げされるという検討調査が行われるということは、今後の日本にとっても大事な視点であるが、同時に、あそこもここもという議論になると、本当に必要な鉄道路線が敷設できなくなる可能性もある。

このあたりのことも経済界の皆さんとしっかりと議論をしていく必要がある。

(飯泉知事)

- ・ 関西新幹線、四国新幹線の話があったが、関西ベイエリアには、5空港があり、滑走路は全部で7本ある。これを有機的に繋ぐための高速鉄道網、さらには高速道路網、この将来設計、また、地震列島という中の危機管理、リダンダンシー、二眼レフ、こうしたものを今こそ打ち出すべきである。関西の経済界を挙げて、ご協力というよりも推進をぜひよろしくお願いしたい。

(鳥居副委員)

- ・ 大阪湾岸道路の西伸部については今年度から事業着手ができ、感謝申し上げる。早期完成が重要であり、引き続き、ご支援、ご協力をお願いする。

首都機能のバックアップ・地方創生関係

神戸商工会議所(家次会頭)

- ・ 双眼型のメガリージョンの形成は最重点課題である。東京一極集中は色々な意味で問題がある。
- ・ 中央省庁の移転も文化庁以外はなかなかうまくいっていない。
- ・ 関西、特に兵庫、神戸は阪神・淡路大震災があり、防災についての経験、ノウハウを色々と蓄積している。特に最近、天災が非常に多い状況を鑑みると、首都圏のバックアップとしても関西での防災庁(仮称)の設置が非常に大事である。まさに国の安全保障にかかわる大きな問題であり、改めて地元官民挙げて、国に強く訴えていく必要がある。

(井戸連合長)

- ・ 現在、防災庁を設置した場合の機能を専門家に議論していただいております。今年度中には報告書をまとめる予定である。事前のシナリオ、復旧シナリオを持っていないことが一番大きな課題であるが、災害が起こる予測の問題、起こった直後の問題、また、復旧復興についての支援の問題を1つのところでトータルに取り扱う部署が必要ではないか。また、双眼構造確立の問題もあるが、首都直下型地震が起きたときに、立川広域防災基地に行けない事態も想定しておかないといけない。関西の果たすべき役割を十分に発揮していかなくてはならない。
- ・ 省庁移転については、国に対してさらに働きかけてまいりたい。

(三日月委員)

- ・ 国立環境研究所の分室が滋賀県にできるので、関西一丸となって取組を進めてまいりたい。

(飯泉知事)

- ・ 政府機関の移転がなかなか進まないというご指摘があったが、やはり、関西を挙げて官民、あるいは学も含めて、何とか二眼レフ構造をしっかりと作っていく必要がある。
- ・ 新未来創造オフィスには、消費者庁職員だけではなく、四国、そして関西広域連合からも是非、集まっていたきたい。また、一番重要となってくるのは、消費者市民社会を形成していく中で大変重要なパートを担っていただく企業の皆さん方である。消費者指向経営のためには、経済界との連携が不可欠である。関西の経済界としても、多くの皆様方に、この新しい消費者行政、消費者教育、また、その拠点を是非、盛り上げていただきたい。
- ・ 3年間の実証実験後には、消費者庁から消費者省へと格上げをしっかりと。関西に移転をしたがゆえにこうしたことができるように、また、消費者目線、国民目線、こうした新しい消費者行政が展開されるように、関西経済界挙げてのご協力をお願いする。

(鳥居副委員)

- ・ 阪神・淡路大震災の教訓を引き継ぐことが非常に重要。防災庁については、連合長から話があったとおり。被災自治体としての経験を、できるだけ各地の被災等に貢献できるようにしたい。

イノベーションの推進

神戸商工会議所(家次会頭)

- ・ 関西は、健康・医療分野でアドバンテージがあり、現在、「関西健康・医療創生会議」で、アカデミアが結集し、医療ビッグデータの2次活用や遠隔医療などのテーマに沿った検討作業が進められている。先端医療分野でブレイクスルーすることも大事な目的だが、健康・医療に関わる自治体、病院、アカデミア、産業界がスクラムを組むことが何よりも重要。また、オープンイノベーション

でいかに早く実現するかが大事である。関西がアドバンテージを発揮することを大いに期待している。引き続き、関西広域連合を介した経済界との緊密な連携と積極的な活動をお願いしたい。

(井戸連合長)

- ・関西医療創生会議での議論は、官民学のスクラムを組むだけではなく、具体の産業化にできるだけ早く結びつけていくことが狙いなので、努力を重ねていきたい。
- ・関西の持っているポテンシャルを生かすことが関西のオリジナリティーを生かすことに通じると考えている。

(飯泉委員)

- ・関西広域救急医療連携計画の第3次計画では、関西の2つの強み(医療とICT技術)の連携を位置づけており、これを大いに駆使し、医療の新しい形を関西から生み出していきたい。

(植田副委員)

- ・健康医療分野におけるアドバンテージの発揮については、広域産業局としても大変重要な柱と認識しており、これまでも実施していた医療機器の相談事業を今年度は大商さんに受託いただいて実施し、大変成果を上げている。改めて感謝申し上げたい。
- ・今年も2月に、「メディカル ジャパン」において、情報発信、企業とのマッチングなどを行う。

万博関係

大阪商工会議所(倉持副会頭)

- ・万博誘致は、東京オリンピック・パラリンピック以降の我が国の成長を牽引するビッグプロジェクトである。誘致競争に勝つためには国内外での盛り上がりが必要。とりわけ関西全域での機運醸成が不可欠であり、各自治体、経済団体におかれては、格別の協力をお願いする。

(井戸連合長)

- ・万博誘致は、関西全域というよりも、関西を初めとする日本全体の盛り上がりが必要になる。観光プロモーションで海外等に出かけるような機会に必ず関西 WMG2021 にいらっしやいということ、万博を大阪でやりましょうという呼びかけを一緒にしていくことが不可欠ではないか。

(植田副委員)

- ・実質2年弱が勝負であり、是非とも機運の醸成を含めてご協力をお願いしたい。

その他

関西経済同友会(蔭山代表幹事)

- ・関西広域連合との意見交換会には、同友会としては関西経済同友会だけが参加している。
- ・関西 WMG2021、万博、IR、広域インフラ等、各地域の同友会が行政と一緒に活動していくことがより効果的と考えており、色々な機会に各地域の同友会にもお声掛けいただきたい。

滋賀県商工会議所連合会(北村理事)

- ・北陸新幹線、リニア中央新幹線が繋がると、関西経済圏と北陸、関東、中部地域との繋がりが今まで以上に大きくなり、流れが大きく変わると予想される。また、少子化、人口減少は、関西も例外ではない。状況の変化を踏まえ、関西広域連合の第3期広域計画に加え、もっと民の力を活用する方向で、中部圏・北陸圏との共栄等、新たな視点による中長期の将来ビジョン、戦略の作成をお願いしたい。

鳥取県商工会議所連合会(藤縄会長)

- ・鳥取県中部地震の風評被害による影響宿泊施設のキャンセルが相次いだ。鳥取県は元気に営業中である。1月10日から始まった「とっとりで待っとります」キャンペーンで、鳥取県をお得に旅行できるツアーもあるので、是非鳥取県においでいただきたい。また、11月に鳥取市で北前船のフォーラムを開催する。この機会に、ご来鳥をお願いしたい。